

(別記)

2019 年度天草市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、水田の耕地面積に占める主食用米面積割合が約50%で、転作作物に占める飼料作物（WCS用稲含む）の面積が多く、耕畜連携による自給率の向上が図られている。

農業形態は、水稻を中心に畜産、果樹、野菜、たばこ等を組み合わせた複合経営を中心に行われている。

主食用米の作付面積は減少しているが、今後も需要に応じた米生産を推進するため、配分された作付目安の範囲内で主食用米の生産振興を図る必要がある。

また、一方で、主食用米の作付が減少する中で、水田活用交付金を活用しながら他の作物の作付に転換を推進することで、水田の維持と所得の増加を推進していく必要がある。

地域の抱える課題として、特に中山間地域における高齢化の進行や担い手不足、条件不利による耕作放棄地の増加が深刻で、不作付地の解消が課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

産地交付金を含めた水田活用の直接支払交付金等を最大限に活用し、担い手への農地集積・利用集積化を進めながら、水田のフル活用と不作付地の解消に取り組む。

(1) 主食用米

安全・安心で食味点数の高い売れる米作りを基本とし、担い手農家や生産組織への農地集積を推進しながら、需要に応じた生産量を確保する。また、高温環境下であっても品質を確保できる耐暑性品種の栽培拡大を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米・米粉用米

飼料用米・米粉用米の生産拡大にあたっては、水田活用交付金や畑作物の数量払い交付金を活用しながら、栽培適地にあった多収品種の導入を推進することで単収を向上させ、生産性と所得の向上を図る。

また、飼料用米のわら利用を推進することで相互のコスト削減を図る。

イ WCS用稲

自給飼料を安定的に確保し、飼料高騰に左右されない安定した畜産経営を維持していくため、耕種農家と畜産農家のマッチングを図りつつ、団地・利用集積化や多収品種の導入により安定した作付を推進し、現状の作付面積を維持する。

(3) 飼料作物

自給飼料を安定的に確保し、飼料高騰に左右されない安定した畜産経営を維持していくため、耕種農家と畜産農家の連携による低コストで良質な粗飼料生産（イタリアンライグラスやソルガム等）について、戦略作物との二毛作による水田のフル活用を推進する。

また、粗飼料生産水田への堆肥の散布に取り組むことにより相互のコスト縮減を図る。

(4) そば、なたね

実需者との契約栽培を基本に適地適作へ取り組み、産地交付金を活用しながら弾丸暗きよ等の排水対策取り組み、収量・品質の向上に向けた安定生産を推進する。

また、そば、なたねの組み合わせによる二毛作の取り組みについても、産地交付金を活用して推進する。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

耕作放棄地の発生防止や水田の持つ多面的機能の維持に効果が出ていることから、産地交付金における園芸作物（野菜等）への支援を行いながら、今後作付面積の維持・拡大を図り、所得の向上を図る。

特に産地交付金の地域特産物として推進しているオクラ、キュウリ、イチゴ、トマトを重点品目に位置付け、品質向上及び商品の産地化に努める。

また、主食水稻との二毛作による、水田のフル活用を推進する。

(6) 地力増進作物・景観形成作物

中山間地域等の条件不利により作付が出来ない農地または、借り手がいない農地は、周辺農地の作付環境維持のためにも、耕作放棄地化を防ぐ必要がある。このため、地力増進作物や景観形成作物を推進し、水田の持つ多面的機能を維持、病害虫の発生を防ぎながら、地域全体の水田営農の安定を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1,294 5,564t	1,300 5,590t	1,350 5,805t
飼料用米	40.7	45	50
米粉用米	0	1	1
新市場開拓用米	0	0	0
WCS用稲	479.7	485	485
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦(基幹)	0	0	0
麦(二毛作)	33.5	34	34.5
大豆	3.8	4.0	4.0
飼料作物(基幹)	80.8	85	85
飼料作物(二毛作)	223.9	230	230
そば(基幹)	5.3	5.4	5.5
そば(二毛作)	11.8	12	12
なたね(基幹)	5.3	5.4	5.5
なたね(二毛作)	4.1	4.2	4.3
その他地域振興作物 (基幹)	228.0	230	235
野菜	159.3	165	170
うちオクラ	11.0	13	13
うちキュウリ	11.4	11.5	11.5
うちイチゴ	4.4	4.5	4.5
うちトマト	6.3	6	6
花き・花木	11.3	12	12
その他 (地力・景観等)	33.4	30	25
その他地域振興作物 (二毛作)	24.3	25	26

※主食用米の目標値(2019、2020年度)において使用した単収は 430 kg/10a

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				（2018年度）	（2020年度）
1	オクラ キュウリ イチゴ トマト	重点品目への助成 （基幹）	作付面積	33.1ha	(31ha) 35ha
2	野菜（上記除く） 花き・花木・果樹 等	地域振興作物への助 成（基幹）	作付面積	126.1ha	(170ha) 135ha
3	麦・そば・なたね・ 飼料作物・主食用 水稲後の野菜（レ タス・高菜、広島 菜・かぼちゃ・ブ ロccoliリー・スイ ートコーン）	二毛作助成 （二毛作）	作付面積	297.6ha	(350ha) 310ha
			農地利用率	113.1%	(115.5%) 113.7%
4	WCS用稲（基幹） 飼料用米（基幹） 飼料作物 （基幹・二毛作）	耕畜連携助成（堆肥 散布・わら利用）	取り組み面積	254.1ha	270ha
			農地利用率	39.7%	41.6%
5	基幹作物である 地力増進作物 景観形成作物	耕作準備作物への助 成（基幹）	作付面積の減少	33.4ha	0ha
			販売野菜への転換	3.5ha	43.7ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。（目標値の上段括弧書きは変更前の数字。）